様式1－3（統一栽培暦様式）

もっと安心農産物　ねぎ（春どり）栽培暦（令和８年）

JA ちばみどり　海上野菜組合産直部会

1. 土づくり

完熟堆肥、または緑肥を施用し、土づくりを行う。土壌診断を実施し、適正施肥を行う。

2. 施肥　☆施肥診断にもとづく施肥量の遵守　**化学肥料窒素成分使用量14kg／10a以下**

	肥料名	保証成分(%)	施肥量
基肥	①マイルドユーキ 030 号 または ②エコレット866	10-13-10(有機態窒素 5.3)	140kg／10a （化成由来Ｎ　6．58kg）
		8-6-6 （有機態窒素 4.1）	160kg／10a （化成由来Ｎ　6．24kg）
	苦土石灰		80kg／10a
追肥	①マイルドユーキ 030 号 または ②エコレット866	10-13-10(有機態窒素 5.3) 20kg あたりの化成由来Ｎ 0．94kg	最大140kg／10a まで追肥可能 （化成由来Ｎ　6．58kg）
		8-6-6 （有機態窒素 4.1） 20kgあたりの化成由来N 0．78kg	最大160kg／10a まで追肥可能 （化成由来Ｎ　6．24kg）

基肥・追肥は①または②を選択し、化成Nの合計が14kg/10a を超えないよう注意しましょう。

3. 防　除　**化学合成農薬　15成分回数まで（苗購入の場合 13 成分回数まで）**

（Zボルドー・スピノエース顆粒水和剤は化学合成農薬に含めない）

月	管理作業	病害虫の発生推移	薬剤名	希釈倍数・処理量	使用回数	対象病害虫	備考（耕種的防除の実施等）
6 月上旬	播種	↑ハモグリバエ・ネギアザミウマ・シロイチモジヨトウ↓ ↑軟腐病・白絹病・べと病↓	カルホス微粒剤F	播種時又は 6 kg/10a 植付時 6 kg/10a	1回	ネキリムシ類	育苗時にホリバー（黄色を設置） 圃場周辺の除草を実施し、雑草・害虫の発生を低減させること
中旬	育苗						
下旬	施肥						
中旬			スピノエース顆粒水和剤	2500～5000 倍	3回	アザミウマ類	
下旬			ハチハチ乳剤	1000 倍	2回	アザミウマ類	
8月上旬	草取り						
中旬							
下旬							
9月上旬	追肥・土寄せ		モンカット粒剤	4～6kg/10a	4回	白絹病	
中旬			バリダシン液剤 5	500 倍	2回	白絹病、軟腐病	
			ハチハチ乳剤	1000 倍	2回	アザミウマ類、さび病、べと病	
下旬			ディアナ SC	2500～5000 倍	2回	シロイチモジヨトウ・アザミウマ類・ネギハモグリバエ	
10月上旬	土寄せ		アフェットフロアブル	2000 倍	2回	さび病 黒斑病 小菌核腐敗病	

月	管理作業	病害虫生の発生推移	薬剤名	希釈倍数・処理量	使用回数	対象病害虫	備考（耕種的防除の実施等）
中旬		↑ネギアザミウマ・シロイチモジヨトウ↓ ↑べと病・さび病・小菌核腐敗病↓	プレオフロアブル	1000倍	4回	ネギアザミウマ・シロイチモジヨトウ	
			フェニックス顆粒水和剤	2000～4000倍	3回	シロイチモジヨトウ	
下旬			フェスティバルC水和剤	1000倍	3回	べと病	
11月上旬	草取り		スピノエース顆粒水和剤	2500～5000倍	3回	アザミウマ類	
			ディアナSC	2500～5000倍	2回	アザミウマ類	
中旬			ランマンフロアブル	2000倍	4回	べと病	
			リドミルゴールドMZ	1000倍	3回	べと病	
下旬	追肥・土寄せ		アミスター20 フロアブル	2000倍	4回	さび病・黒斑病・べと病	
12月上旬			レーバスフロアブル	2000倍	2回	べと病	
中旬			カナメフロアブル	4000倍	4回	黒腐菌核病	
下旬			ロブラール水和剤	1000～1500倍	3回	黒斑病	
1月上旬	土寄せ		クプロシールド	1000～1500倍		軟腐病	
中旬			オロンディスウルトラSC	2000倍	2回	べと病	
下旬			メジャーフロアブル	2000倍	3回	さび病、べと病	
2月上旬	土寄せ		アフェットフロアブル	2000倍	2回	さび病 黒斑病 小菌核腐敗病	
中旬							
下旬							
3月上旬	収穫						
中旬							
下旬							

☆みんなで守ろう生産基準